

5.20

神戸アリーナ誕生がもたらす ビジネスチャンス

神戸スポーツ産業懇話会 特別公開セミナー

当商工会議所が事務局を務める神戸スポーツ産業懇話会は、「神戸アリーナ誕生がもたらすビジネスチャンス」をテーマに特別公開セミナーを開催した。

神戸アリーナは、神戸港の新港突堤西地区第2突堤に2024年度のオープンを目指して開発中の施設。プロスポーツやコンサートなどの興行をはじめ、国際会議など多目的に活用される。1万人規模の収容能力は、兵庫県内では最大で、関西圏でも有数の施設となる。バスケットボール男子Bリーグ2部の「西宮ストークス」が同アリーナを本拠地とする方針も発表されている。屋外にはイベントスペースや緑地なども整備される。

セミナーでは、はじめにスポーツビジネスを通じた地域創生研究の第一人者である早稲田大学スポー

ツ科学学術院教授の間野義之氏を迎え、「スタジアム・アリーナを核とした地域活性化」をテーマに講演を行った。

間野氏は、2016年から2025年までの10年間に、日本のスポーツ市場規模を3倍の15兆円まで拡大させる政府方針を紹介。その具体的施策の一つとして、スタジアム・アリーナを核とした街づくりの重要性を指摘した。特に、スタジアム単体の機能だけでなく、周辺の公共施設や商業施設など、エリアマネジメントを含む複合的な機能を組み合わせたサステナブルな交流拠点としてスタジアム・アリーナを位置づける「スマート・ベニュー®」の考え方が地域活性化に寄与することを説明した。

また、スポーツの試合だけに頼らない収益構造を実現している運営事例や、スタジアムに高齢者専用の賃貸住宅を設けることで、試合日に家族が集まる仕掛けを作っているスイスのスタジアムなど、従来の発想にとらわれない海外の事例を複数取り上げ、「スポーツスタジアムを核として様々な産業にビジネスチャンスが広がっている」と強調した。

続いて、神戸アリーナを運営する(株)One Bright KOBE代表取締役の岩本健太郎氏が、神戸アリーナの具体的な計画について紹介。岩本氏は「興行のない日も賑わうエリアを創造したい」と語り、アリーナ内施設の充実はもちろん、周囲を海に囲われた神戸ならではの立地を生かしたコンテンツ構想について説明した。

また、日本初の「社会課題解決アリーナ」を目指し、環境問題への取り組みのみならず、地域のウェルネス向上、スマートシティ推進、レジリエンス強化にも寄与すると強調し、地元神戸の企業にも積極的な関与を呼び掛けた。

講演終了後のネットワーキングでは業種を超えた活発な交流が見られた。参加者からは「神戸アリーナへの期待が高まった」「今後のビジネスへのヒントを得た」などの声が寄せられた。



神戸アリーナ完成予想図（2021年4月時点）※変更となる場合があります